

第 131 回 東海地区三県下(愛知・岐阜・静岡)の企業経営動向調査

1. 概況

全産業の業況総合判断「D.I」は 5 期連続で「好転」超が続く

1. 業況総合判断「D.I」は前回比+4.8ポイントの8.5となり、5期連続で「好転」超を示した。前回比では全ての業種で「好転」超となり、卸売業、小売業、運輸・倉庫業で大きく好転した。
2. 売上高「D.I」は前回比+1.1ポイントの11.1となり、全ての業種で「好転」超となった。前回比では製造業を除く業種で「好転」超幅が増加し、特に卸売業が大きく好転した。
3. 収益「D.I」は前回比+5.3ポイントの6.5となった。全ての業種で「好転」超となり、特に運輸・倉庫業が大きく好転した。
4. 経営上の問題は、前回調査時同様「人材の育成」や「求人難」の構成比が4割超となっており、「人」に関する問題が増加傾向となっている。「売上・受注不振」については減少傾向にあるが依然として根強い問題となっており、他には「新事業展開・技術開発」、「過当競争激化」が上位を占めた。

今回（平成 27 年 4 月～9 月）は昨年実施された消費税率引き上げの影響も薄れ、傾向判断基準の前回比において製造業を除く業種で業況総合判断「D.I」、売上高「D.I」及び収益「D.I」が好転した。先行き見通しについては、明るい予想が多いが、設備投資については小売業を除く業種で減少を予測している。

